



森林業のサービスの質を高めたい

シュプロスは、林業経験者、家具職人、デザイナー、ハンターと、それぞれ異なるバックボーンを持った30代の男女4人で構成されています。ドイツやオーストリアの森林施業に多くを学んでおり、「ひこばえ」を意味するシュプロスというドイツ語の名前にしました。

当麻町伊香牛地区は、町内の北西部に位置し、住宅や農地に近接して個人所有の林地が続いています。このうちの2カ所、伊香牛2区と3区にある計4.4haのカラマツ人工林(50年生)が私たちの活動対象森林です。

伊香牛2区の森の山主は東京都在住の60代男性、伊香牛3区のほうはシュプロス構成員が所有する森です。どちらも長期間放置されていたため、密生して風倒木が多く、入林困難な状況でした。平成28年豪雪時には林縁のカラマツが隣接農地に倒れ込むなどの被害を出し、さらに道路や電線への倒木も懸念されたことから、交付金を利用して森林整備を進めようと考えました。

既存の林業では、事業者から山主に提案できるサービスのメニューは限られています。私たちが活動する森の山主にも、「針広混交林をつくりたい」「散策して気分転換を図りたい」「自然観察をしたい」「だれもが入れる森にしたい」などといった細かいニーズがあります。これらは既存林業が扱ってこなかったサービスだと思います。しかし、他の産業と同じように、サービスの質を向上させたり、選択肢を増やしたりできれば、それは産業基盤の底上げにつながります。そこでシュプロスは、森林管理・整備、林産製品の生産、森林体験など、森林に関わるすべてを「森林業」ととらえ、森林サービスの質の向上と新しい価値観の創造を目指しています。

除伐後の空間に手作業で遊歩道を開設

平成29年度は、9月に森林の現況調査を実施し、10月から風倒木や危険木の処理に取りかかりました。その際、近くの幼木にあらかじめロープをかけてたぐり寄せておくなど、周辺環境を傷つけないように配慮しました。またこの地域ではキウルシの侵入が激しく、侵入不要木として除伐やツル切りをしました。

伊香牛2区の森では、風倒木を大量に処理した結果、大きく開けた空間が生まれたので、これを生か

して、延長240mの遊歩道を開設しました。重機は使わず、すべて手作業で道を造りました。風倒木処理の空間を生かしたので、自動車だと切り返しが必要なほどの鋭角カーブもあります。雪解け後、風倒木の搬出作業に軽トラックを使用する予定ですが、その後はこの道には車両を入れず、いずれ自然と同化していくことを前提に、木々の芽ばえや枯損木の腐朽を観察できる道にしたいと考えています。

伊香牛3区の森では、ツリーハウス建設を進めています。私たちは、森林整備の意味やその後の利用を明確化することが重要だと考えています。多くの人が森に集まって価値観を共有したり、環境資源に対する理解を深めたりすることによって、森林サービスの価値を高め、新しい価値を創造することにつなげたいと考えています。

道路や農地のそばの森は目立つので、森林整備・森林活動のモデルに適していると思います。実際、きれいに整備された森を目にした近在の方から「自分の森もぜひやってほしい」と声がかかり、来年度から一緒に取り組むことになりました。既存林業経営体とシュプロスを比較して、私たちを選んでいただきました。ほかにも数件の問い合わせが来ています。

とはいえ、関心はまだ低いので、情報発信に努めて、だれでも参加しやすいイベントを開くなど、人と森との関わり方、林業と農業の関わり方など、幅広く研修できる場を提供できたらと思っています。



報告者

福山 寛人さん

